

序

京都府立医科大学が、その発祥の地であります粟田口の青蓮院内に仮療病院として開かれてから 100 年、世の移り変わりとともに医学・医術・医業もおどろくべき変革をとげてまいりました。

そしてここに、100 年の学史を訪ね、未来を拓くために百年史が刊行されることは、23年間にわたり知事として、本学に関係してまいりましたものとして、まことに感無量なるものがあります。

その間、本学が幾多の風雪に耐え、近代医学の研究と教育、診療に一貫した情熱をそそぎ、輝かしい業績を積み重ね、多くの有為な医師・医学者を育成し、そして府民の「府立病院」として信頼され、昨年11月にはめでたく創立 100 周年の記念式典を盛大に挙行できましたことは、大学のみなさんは申すにおよばず、知事として府民のみなさんとともに喜びにたえません。

いまや、科学技術はめざましい発展をとげつつありますが、その大きな歯車に対し、未来が間いなおされております。

そして、いまほど人間の生命の尊厳をきびしく認識すべきことを要請されているときもないと思います。

人間をとりまく環境の実態をみるにつけ、いよいよ人間の健康のたいせつさを痛感するところであります。

そして、現代の医療は、もはや医師と患者との間の私的な関係をこえた社会の医療としての機能を必要とされるものになってきております。

この医療の転換は、大学・教育病院・一般医師と地域住民そしてさらに府県、市町村という地方自治体の 3 者が、オーケストラの演奏のように呼吸をあわせてやっていってこそ果たせるものでありましょう。

この意味におきまして、本学の医療センターの構想は、まさにわが国の新しい医療の道へのパイオニアであります。

本学は、わが国では歴史的に最も古く、その反面、内容は最も新しいという大学であり、府民とともに歩む医科大学であることを特色としています。

本学がこの記念すべき創立 100 年を契機として、誇り高き伝統と歴史、そしてその使命感のもとにさらに次の 100 年を展望し、新しい時代の医科大学としてますます前進することを心から念願いたしまして、百年史刊行のあいさつといたします。

1973 年 11 月 17 日

京都府知事 蜷 川 虎 三